

緊急時モニタリング検査

1. 背景

東京電力福島第一原子力発電所の事故により大量の放射性物質が環境中へ放出され、本県の河川・湖沼に生息する魚類は放射能に汚染されました。

福島県内の帰還困難区域等を除く養殖業者及び、河川・湖沼から内水面魚類を採取し、食の安全安心を確保するための緊急時モニタリング検査に供しました。東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う放射性物質の内水面魚類への影響を評価することを目的にデータを整理しました。

2. 材料と方法

2011年3月30日から2025年10月31日までに緊急時モニタリングに供した、内水面魚類(養殖魚:15種1,301検体、天然魚:20種8,449検体(シロザケを除く))について、データを整理しました(表1)。

表1 魚種別のモニタリング供試検体数

養殖魚																	天然魚																		
魚種/年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	総計	魚種/年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	総計	
アユ		4 (0)	4 (0)	2 (0)								2 (0)	2 (0)		3 (0)	2 (0)	19 (0)	アユ	74 (41)	59 (4)	49 (1)	63 (1)	56 (1)	91 (0)	157 (0)	143 (0)	183 (0)	26 (0)	41 (0)	112 (0)	45 (0)	214 (0)	230 (0)	1543 (48)	
イワナ	1 (0)	89 (0)	103 (0)	97 (0)	98 (0)	80 (0)	73 (0)	43 (0)	31 (0)	35 (0)	14 (0)	19 (0)	11 (0)	8 (0)	8 (0)	4 (0)	714 (0)	イワナ	47 (24)	165 (27)	176 (14)	343 (9)	166 (3)	171 (0)	193 (4)	248 (3)	279 (1)	252 (0)	113 (1)	149 (1)	75 (0)	104 (0)	30 (0)	2511 (87)	
ウグイ					1 (0)												1 (0)	ウグイ	46 (15)	66 (13)	73 (5)	135 (1)	60 (0)	120 (0)	103 (0)	105 (0)	232 (0)	91 (0)	19 (0)	18 (0)	10 (0)	18 (0)	13 (0)	1109 (34)	
ウナギ								2 (0)	1 (0)								3 (0)	ウナギ	3 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (0)		1 (0)	5 (0)	6 (0)	4 (0)	5 (0)	7 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	47 (5)		
コイ	1 (0)	13 (0)	12 (0)	11 (0)	11 (0)	12 (0)	12 (0)	9 (0)	12 (0)	12 (0)	9 (0)	10 (0)	4 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	137 (0)	コイ	13 (3)	22 (2)	17 (2)	11 (1)	19 (0)	34 (0)	34 (0)	45 (0)	44 (0)	15 (0)	19 (0)	28 (0)	6 (0)	6 (0)	3 (0)	316 (8)	
コレゴヌス		12 (0)	15 (0)	10 (0)	13 (0)	4 (0)											54 (0)	ヒメマス	6 (4)	10 (9)	18 (8)	21 (1)	26 (0)	8 (0)	7 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	110 (22)		
ニジマス		17 (0)	22 (0)	24 (0)	24 (0)	23 (0)	12 (0)	11 (0)	12 (0)	12 (0)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	6 (0)	5 (0)	5 (0)	182 (0)	フナ類	21 (6)	14 (5)	19 (6)	15 (0)	30 (0)	33 (0)	38 (0)	33 (0)	90 (0)	84 (0)	22 (0)	16 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	422 (17)	
ヒメマス				1 (0)	1 (0)												2 (0)	ヤマメ	74 (41)	122 (21)	142 (17)	153 (14)	130 (3)	126 (4)	154 (6)	252 (2)	264 (1)	263 (1)	144 (1)	116 (1)	77 (0)	92 (0)	83 (1)	2192 (112)	
ヤマメ		30 (0)	21 (0)	18 (0)	21 (0)	18 (0)	20 (0)	8 (0)	7 (0)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	6 (0)	7 (0)	2 (0)	1 (0)	180 (0)	ワカサギ	41 (37)	29 (0)	13 (0)	13 (0)	7 (0)	5 (0)	7 (0)	5 (0)	6 (0)	5 (0)	7 (0)	6 (0)	5 (0)	3 (0)	3 (0)	155 (37)	
ワカサギ												1 (0)					1 (0)	ドジョウ	4 (0)	1 (0)	1 (0)												6 (0)		
ドジョウ		1 (1)	1 (1)														2 (2)	その他	16 (7)		4 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)			5 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	38 (7)			
ホンモロコ		1 (1)															1 (1)	合計	345 (180)	491 (83)	514 (54)	759 (27)	495 (7)	592 (4)	699 (10)	839 (5)	1103 (2)	743 (0)	379 (2)	453 (2)	226 (0)	444 (0)	367 (1)	8449 (377)	
モツゴ		3 (1)															3 (1)	その他															2 (0)		
その他								1 (0)	1 (0)								2 (0)	合計	2 (0)	170 (3)	178 (1)	162 (0)	169 (0)	138 (0)	117 (0)	74 (0)	64 (0)	67 (0)	33 (0)	41 (0)	26 (0)	25 (0)	20 (0)	15 (0)	1301 (4)

*2011年3月30日～2025年10月31日までの検体を採取日で整理した。
*下段の()は基準値超過数を示す。

3. 結果

養殖魚では、2011～2012年度に食品衛生法に基づき定められた基準値(以下、基準値)である100Bq/kgを上回る事例が3件ありましたが、その後は確認されませんでした(図1)。

天然魚では、2011年度に基準値を超えた検体の割合は52.3%でしたが、2012年度は16.9%、2013年度は10.5%、2014年度は3.6%、2015年度以降は0～1.4%で推移していました。2020、2023及び2024年度はすべて基準値を下回りましたが、2025年10月にヤマメ1検体が基準値を超過しました(表1)。

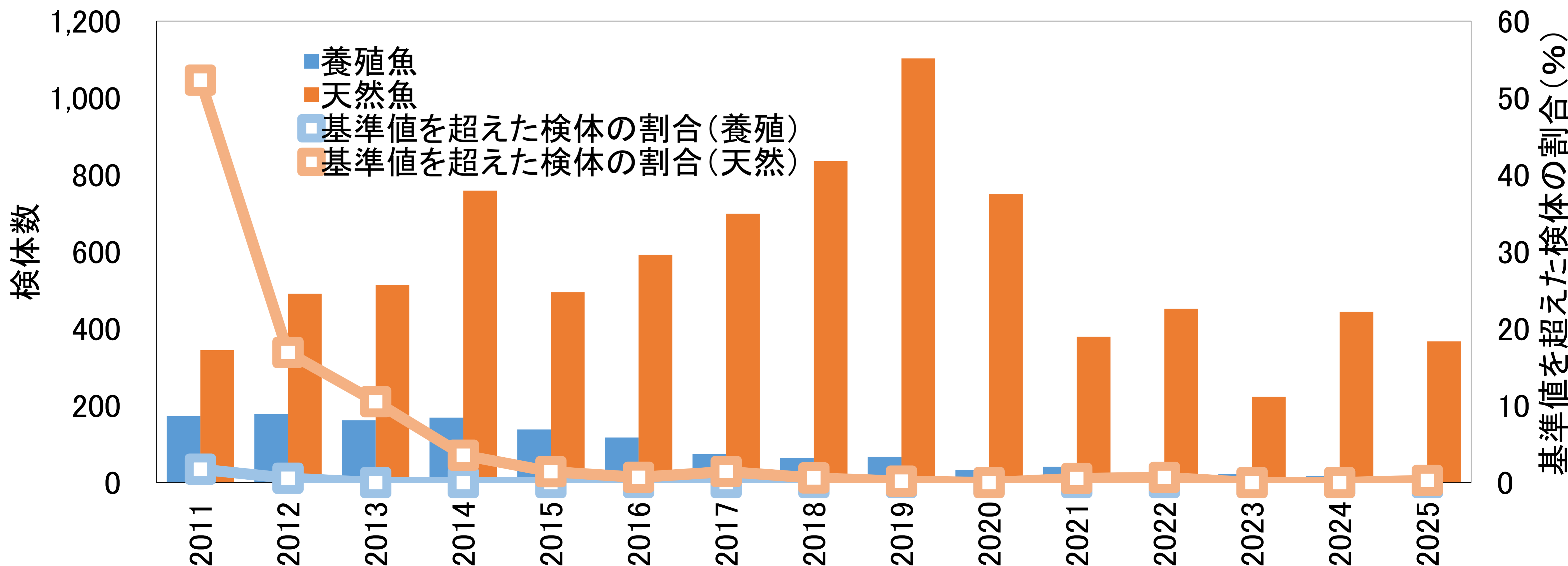


図1 調査した検体数と基準値を超えた検体の割合

4. まとめ

今後も本県内水面の全漁協、全魚種の漁業・遊漁再開に向け、継続して検査を行ってまいります。